

# 第19回愛知県医療ソーシャルワーク学会

## ご挨拶

学術集会長 水野大介

第19回愛知県医療ソーシャルワーク学会の学術集会長を務めます水野大介です。2025年2月8日（土）にポートメッセなごやにて、第19回愛知県医療ソーシャルワーク学会を開催します。

今回のテーマは「横のつながりが生み出すソーシャルワークの可能性」です。新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人との結びつきが希薄になり、私たち医療ソーシャルワーカーの業務にもその影響が顕著に現れました。私たちの仕事は人と人をつなげ、支援の輪を広げることが本質です。だからこそ、この学会が再び横のつながりを強化し、新たな可能性を見出す場となることを願っています。

本学会では、様々な分野で活躍する専門家の講演や、最新の研究発表を通じて知識と経験を共有する機会を設けています。

基調講演として、医療法人社団悠翔会理事長の佐々木淳先生をお招きし、「在宅での看取りと意思決定支援」についてご講演いただきます。悠翔会は、首都圏近郊に20件、全国24拠点の在宅医療クリニックを開設し、医師65名、常時5200名ほどの患者を24時間体制サポートしています。最期まで自宅で過ごしたいと願うすべての想いを応えるためにどのようなことをされているのか、貴重なお話を聴かせていただければと思います。

また、教育講演として、日本福祉大学名誉教授の石河久美子先生による「多文化ソーシャルワークの実践に向けて一増加する在住外国人への支援」、そして、東京医科大学八王子医療センター医療福祉室長である品田雄市先生による「療養の場の選定と意思決定—がん患者・家族支援のいま」の講演を予定しています。さらに、シンポジウムでは「地域医療連携室のこれから」というテーマで、済生会新潟病院の神田義則先生、JCHO山梨病院の中村成一郎先生、そして、座長に静岡県医療ソーシャルワーカー協会中村敬会長をお迎えし、活発な議論を展開します。

今回の学会では、愛知県のみならず、岐阜県、三重県の医療ソーシャルワーカーの方々からも演題発表をいただき、合計24演題を予定しています。これにより、地域を越えた多様な視点からの意見交換が期待されます。本学会で得た知識や技術を活用し、明日からの医療ソーシャルワーク業務に役立てていただければ幸いです。皆様がそれぞれの現場でより良い支援を提供できるよう、全力でサポートしてまいります。

本学会が皆様にとって実り多い時間になることを願っております。どうぞよろしくお願いたします。